

音楽科学習指導案

I 題材 思いを表現に生かそう

II 考察

1 題材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

①知識及び技能

曲想と音楽の縦と横との関係や音色、強弱等との関わりについての理解

曲想に合った表現をするために必要な技能

②思考力、判断力、表現力等

曲想と音楽の縦と横との関係や音色、強弱等との関わりを生かして音楽表現を工夫したり、音楽の縦と横との関係を聴き取りながら、曲全体を味わって聴いたりする力

③学びに向かう力、人間性等

思いを伝えるために友達と声や音を合わせて音楽活動に主体的に取り組む態度

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

A表現(1)ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。

イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解すること。

ウ(ウ) 各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能

(2)ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。

イ(ア) 曲想と音楽の構造との関わり

(イ) 多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり

ウ(ウ) 各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能

B鑑賞(1)ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。

(3) 題材の価値

本題材は、思いが伝わるように、曲想と音楽の縦と横との関係や音色、強弱等との関わりを生かして表現したり、音楽の縦と横との関係を聴き取りながら、曲全体を味わって聴いたりする学習である。その価値は以下のとおりである。

子どもたちはこれまでの学習で、強弱や音色を工夫して自分の旋律を表現したり、音の重なりやそこから生み出される響き（和声の響き）を感じ取ったりしてきている。音楽の縦と横との関係に着目することにより、音楽の流れの中で、自分の旋律が友達の旋律とどのように関わり合っているか考えることができ、学年のまとめとして既習の音楽を形づくっている要素やその働きを用いて音楽をつくりあげることにつながる。

『「カルメン」第1幕への前奏曲』は、曲想が変化していくことのよさや面白さを感じ取りながら2学期に鑑賞をした曲である。友達と一緒に合奏したり総譜を見ながら聴いたりする中で、自分の旋律と友達の旋律の関わり（音楽の縦と横との関係）に気付くことができる。また、音楽の縦と横との関係を手掛かりにすることにより、全体の響きを意識しながら音楽表現の工夫を考えることができ、思いや意図に合う音楽表現の実現につながる。

『Change!』の歌詞には、人間関係の中で、変りたいけれど変わるきっかけがつかめない子

どもが、気持ちを切り替えて前へと進んでいく様子が描かれている。高学年になり人間関係に変化が起きたり、6年生に向け気持ちを新たにしたりする子どもの思いに寄り添う歌詞や旋律、伴奏になっているため、自分の経験と関わらせて思いや意図をもつことができる。音楽の縦と横との関係を手掛かりに合奏をしてきた子どもたちは、合唱曲でも、自分の旋律と友達の旋律や、伴奏とが重なり合って曲が構成されていることに気付くことができる。そして、音楽の縦と横との関係を生かして、強弱や音色などといった工夫をしながら、表現を高めることができる。

題材を通して、音楽の縦と横との関係を手掛かりに音楽表現を工夫することで、自分たちのイメージに合う音楽表現の工夫ができることが実感できた子どもたちは、他の曲でも音楽の縦と横との関係に注目しながら、音楽表現を高めたり味わって聴いたりできるようになっていく。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、6年「旋律の重なり合い」で、音色や旋律の特徴を聴き取り、重なり合う響きの美しさを感じ取って、響きの美しさを生かしながら、自然で無理のない声で歌ったり、楽器を演奏したりする学習へと発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、5年「アンサンブルの楽しみ」において、曲想の変化を聴き取ったり、曲想の変化やイメージに合わせて、楽器の組合せや奏法を変えたりしながら音楽表現の工夫を考えてアンサンブルをしてきた。この学習の中で明らかになった子どもたちの実態及び本題材を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ①曲想の変化と音色や強弱との関わりについて気づき、イメージに合った音色や強弱で演奏してきている。このような子どもたちが、曲想と音楽の縦と横との関係との関わりについて気づき、イメージに合った音色や強弱などで演奏できるように、気付いたことや工夫したことを記入できる総譜をパートに1枚ずつ用意する。
- ② 曲想の変化と音色や強弱との関わりを生かして楽器の奏法を工夫して演奏してきている。このような子どもたちが、曲想と音楽の縦と横との関係との関わりを生かして音色や強弱などを工夫できるように、様々な旋律同士を重ねて演奏をしたり聴いたりして比較する活動を設定する。
- ③曲想の変化に興味・関心を持ち、イメージに合わせて楽器の奏法を工夫して演奏する学習に主体的に取り組んできている。このような子どもたちが、音楽の縦と横との関係に興味・関心を持ち、これまでの学習を生かして、イメージに合わせて表現を工夫する学習に主体的に取り組めるように、まとめの学習として保護者へ向けて発表する機会を設定する。

Ⅲ 目標及び評価規準

Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

Ⅴ 本時の学習

- 1 ねらい 重なり合う旋律の音色や強弱などを変えながら演奏したり聴いたりして比較することを通して、音楽の縦と横との関係を手掛かりに、自分たちのイメージに合う音色や強弱などの音楽表現の工夫を考えて演奏することができる。
- 2 準備 拡大総譜 キーボード 木琴 鉄琴 大太鼓 小太鼓 パート譜
- 3 展開

学習活動と子どもの意識

指導上の留意点

<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ☆は明るくてにぎやかなイメージになるように、全員で合わせて、強い音ではねるように合奏したな。 ・ 続きの Bからは静かに始まるけど、だんだん盛り上がっていく感じだな。音楽の縦と横との関係を手掛かりにしてイメージに合った工夫を考えたいな。 	<p>○前時で、音楽の縦と横との関係を手掛かりにして音楽表現の工夫を考えたことを思い出せるように、練習番号の ☆から Cまでを通して合奏し、工夫したこととその理由を問いかける。</p> <p>○音楽の縦と横との関係を手掛かりにしてイメージに合った音楽表現の工夫を考えていくという見直しをもてるように、自分たちの表現したいイメージと追求している課題を問いかける。【ア】</p>
<p>めあて「イメージに合った工夫を、縦と横との関係を手掛かりにして考えて合奏しよう」</p> <p>「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ子どもの姿</p> <p>-----</p> <p>自分の旋律と友達の旋律との関わり（音楽の縦と横との関係）を手掛かりにして、一緒に演奏したり友達の演奏を聴いたりしながら、曲想に合う音色や強弱などの工夫を考えている。</p>	
<p>2 イメージに合う演奏の工夫を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ☆はにぎやかな感じだから大きな音ではねるように演奏しているけれど、 Bは静かに始まるから、小さな音でなめらかに演奏するとよいと思うよ。 ・ ぼくのソプラノアコーディオン（楽器は鍵盤ハーモニカ）は、小さく演奏するために、息の強さを弱くしてみたいな。今の息の強さと、少し弱くした息とで演奏して比べてみよう。 ・ 息を今より少し弱くすると、静かな感じがしていいと思ったよ。一緒に演奏している友達の楽器にも、小さな音で演奏してもらったら、イメージに合っていると言ってもらえたよ。 ・ 続きの Cの部分は、一緒に演奏している楽器が増えるよ。だんだん盛り上がっていく感じを出すために、同じ旋律を演奏している楽器の友達と合わせて演奏して工夫を考えてみよう。 	<p>○イメージに合わせて音色や強弱を工夫をするとよいことに気付けるように、練習番号の ☆・ Aと B・ Cの演奏を聴き比べる時間を設定し、奏法の違いを問いかける。</p> <p>○イメージに合う音色や強弱の工夫を考えられるように、パートごとに、イメージに合わせて息の強さや音の長さなどを変えて演奏しながら比較してみるよう助言する。【イ】</p> <p>○全体のバランスを意識しながら、音色や強弱の工夫を考えられるように、パートで考えた工夫を全体で共有しながら比較演奏する時間を設定し、イメージに合う工夫を問いかける。【イ】</p> <p>○よりイメージに合った演奏ができるように、 ☆から Cまでの様々な場面で、自分と関わりのある旋律を演奏しているパートと一緒に音楽表現の工夫を考えるよう助言する。</p>
<p>— 評価項目 —</p> <p>曲想と音楽の縦と横との関係を関連付け、音色や強弱などの音楽表現の工夫を考えて楽譜に記述したり、発言したりしている。＜発言・記述②＞</p>	
<p>3 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽の縦と横との関係を手掛かりに、音色や強弱などの工夫を、演奏を比べながら考えたら、イメージに合う演奏に近づいたよ。 	<p>○音楽の縦と横との関係を手掛かりにして、音楽表現の工夫を考えられたことを実感できるように、まとめの合奏をする時間を設定し、イメージに合わせて音楽表現の工夫を考えられたことを称賛する。</p>

指導と評価の計画（全9時間）

目標	思いが伝わるように、曲想と音楽の縦と横との関係との関わりを生かして表現したり、音楽の縦と横との関係を聴き取りながら、曲全体を味わって聴いている。				
評価 規準	(①知識及び技能)曲想と音楽の縦と横との関係や音色、強弱などを理解し、歌詞の表す気持ちを表情豊かに歌ったり、音の重なる響きを生かして楽器を演奏したりする。 (②思考力判断力表現力等)曲想と声や音の重なり合う響きや歌詞の内容などとの関わりを生かした表現について思いや意図をもったり、音楽の縦と横との関係を意識しながら曲全体を味わって聴いたりする。 (③主体的な学習取組態度)今までに習ったことを生かして、思いが伝わるように友達と声や音を合わせて表現したり、音楽を味わって聴いたりする学習に進んで取り組もうとしている。				
見方 考方	音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽の縦と横との関係や音色、強弱などの音楽を形づくっている要素とその働きで捉え、保護者へ思いが伝わるように、曲のイメージや自分の思いや意図とを関連付けている。				
教材	ア…学年選択合唱曲 Change! 梅野 知子 作詞・作曲 変ホ長調 4分の4拍子 イ…学年選択合奏曲 カルメン前奏曲 ビゼー 作曲 山下国俊 編曲 ハ長調・変イ長調 4分の2拍子				
過程	時間	配分	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>
つか む 追 求 す る	1	ア	○『change!』を歌ったり、『カルメン前奏曲』を聴いたりして、「思いを表現に生かそう」という学習のめあてをつかむ。	○思いを込めて歌ったり演奏したりしたいという意欲がもてるように、学習発表会で演奏する曲の曲想や歌詞、自分の経験を基に、伝えたい思いを考え、共有する時間を設定する。	◇曲想と歌詞の表す内容や強弱などとの関わりに気付き、それらを生かして表現したいという思いや意図をもち、主体的に歌ったり思いを伝え合ったりしている。 <発言・記述①②③>
	1	イ	課題①音楽の縦と横との関係とは何だろう	○自分の演奏している旋律と友達の旋律の関わり(音楽と縦と横との関係)に気付けるように(課題①:ア)、個人用のパート譜と総譜を用意する。	◇旋律の特徴や旋律同士の関係について気付いたことを、発言したり記述したりしている。 <発言・記述①>
	2		課題②イメージに合った工夫の仕方を音楽の縦と横との関係を手掛かりに考えよう。	○音楽の縦と横との関係を手掛かりに(課題②:ア)音色や強弱などの音楽表現を工夫できるように、旋律ごとの重なり方や奏法による曲想の違いを比較する活動を設定する。イ	◇曲想と音楽の縦と横との関係を関連付け、音色や強弱などの音楽表現の工夫を考えて楽譜に記述したり、発言したりしている。 <発言・記述②>
	2		○『「カルメン」第1幕への前奏曲』の前半を合奏する。(本時2/2)	○音楽の縦と横との関係を手掛かりに(課題②:ア)音色や強弱などの音楽表現を工夫できるように、前半との曲想の違いを比較する活動を設定する。イ	◇曲想と音楽の縦と横との関係を関連付け、音色や強弱などの音楽表現の工夫を考えて楽譜に記述したり、発言したりしている。 <発言・記述②>
	2		○『「カルメン」第1幕への前奏曲』の後半を演奏する。	○曲想と音楽の縦と横との関わりについて理解して演奏できるように、これまでの工夫を書き込んだ拡大総譜を提示する。	◇曲想と音楽の縦と横との関わりについて理解し、音色や強弱などの工夫を生かして音を合わせて演奏している。 <表現・記述①>
	1		○『「カルメン」第1幕への前奏曲』を全体を通して合奏する。	○合奏で工夫した音楽表現の工夫を生かして歌うことができるように(課題③:ア)、『Change!』の楽譜に、音楽の縦と横との関係を手掛かりに工夫したいことを記述する時間を設定する。	◇曲想と音楽の縦と横との関わりについて気付き、音色や強弱の工夫を考えたり、工夫を生かしたりして音を合わせて歌っている。 <表現・記述①②③>
1	ア	課題③合奏でできるようになったことを、歌にも生かすにはどうしたらよいだろうか。			
まとめ	1		○『Change』と『「カルメン」第1幕への前奏曲』を発表する。	○これまでの学習の成果を実感できるように、演奏を保護者へ向けて発表する機会を設定する。	◇曲想と音楽の縦と横との関係との関わりに気付き、それらを生かし、思いを込めて主体的に表現している。 <表現①②③>